

第1回草津市幼保一体化検討委員会 議事概要

日時	平成24年8月1日(水) 午後2時から午後3時50分まで
場所	草津市役所 4階 行政委員会室
委員	西川委員長、福永副委員長、吉田委員、白井委員、大森委員、寺尾委員、東田委員、斎藤委員、井上委員、後藤委員、野村委員、永元委員(委員12名中全員出席)
事務局	白子子ども家庭部長、山本子ども家庭部副部長(総括)、木村子ども家庭部副部長(幼児担当)、田中幼児課長、木村幼児課副参事、古川幼児課副参事、川那邊幼児課専門員、吉田幼児課専門員、田淵草津保育所長 (運営支援) ㈱ジャパンインターナショナル総合研究所 田中、木口
議事項目	(1) 草津市における幼稚園・保育所(園)の現状について (2) 草津市における幼保一体化に向けての取り組み経過について (3) 今後の検討内容と開催予定について
資料	別添のとおり

1. 開会

2. あいさつ(橋川草津市長)

3. 委員および事務局紹介

4. 草津市幼保一体化検討委員会設置要綱等について

- ・事務局から説明

5. 委員長および副委員長の選出

- ・西川委員長および福永副委員長を選出

6. 議事

(1) 草津市における幼稚園・保育所(園)の現状について

①事務局から説明

<事務局>

資料「草津市の現状について(市域全体の概況)」に基づき説明
(説明内容の概要)

1. 現在の草津市内の認可保育所と幼稚園の概要について

(H25.5.1現在)

	施設数	定員	在籍数
公立認可保育所	6	600人	635人
私立認可保育所	13	1,790人	1,917人
公立幼稚園	10	1,040人	793人
私立幼稚園	4	785人	738人
計	33	4,215人	4,083人

2. 就学前人口と認可保育所・幼稚園の在籍割合の推移について

- ・就学前児童数と認可保育所・幼稚園の在籍割合(年度当初現在)
- ・保育所・幼稚園の設置主体別在籍者の就学前児童の割合(年度当初現在)

※就学前人口は、平成19年度以降増加傾向にあり、平成25年度から平成26年度がピークとなり、その後減少局面に転じる見込み。今後、直近の人口動態を加味し、再推計を実施する。

3. 認可保育所の入所状況

4. 幼稚園の入園状況

5. 今後の現状と課題分析について

②討論・質疑応答

(討論・質疑応答の概要)

- ・人口推計におけるコーホート分析について
- ・公立保育園の入所状況について

(討論・質疑応答の内容)

<委員長>

人口推計におけるコーホート分析とは何か?

<事務局>

就学前人口の推移については、草津未来研究所が、前年や直近の人口増加率等によ

り、簡易的な人口推計を出しており、その数値を採用している。今後、就学前人口の再推計を行う上で、コーホート分析といった、人口動態分析の専門的な手法を用いていきたい。コーホート分析とは、同じ規模の集団が現状あると仮定した上で、時間的な経過等の諸条件を加えて分析をするものである。国立の人口問題研究所等の人口推計で広く用いられている。

<事務局>

例えば、平成25年度では5歳児の子どもが平成26年度では6歳児になると想定されるので、そういう集団が年々どれくらい変化していくのかという部分を細かな視点で見る。また、出生率を掛け合わせたコーホート要因法もあり、より実情にあった人口推計をしていきたいと考えている。

<委員長>

難しい内容であるが、具体的に何が見えてくるのか。

<事務局>

簡単にいうと、より実態に応じた人口推計が可能になる。

<委員長>

より正しい数値に近づくという理解でよろしいか。

<事務局>

従来、草津未来研究所で推計したものは、草津市全体という形であるが、当然地域ごとに差がある。そういうことを含めもう少し精緻な分析を行っていきたい。

<委員長>

かなり数値が精緻され地域差もでてくるのであれば、今後概要を見て課題を抽出していける資料がでてくるということか。

<事務局>

全てお示しできるかは分からないが、大方の部分は次回に説明をしていきたい。

<A委員>

入所状況のところ、幼稚園は公立と私立とに分かれているが、保育園が分かれていないのはなぜか。

<事務局>

今回は概要データの提示であり、次回に詳細データを合わせて提示させていただきたい。

<委員長>

それはあった方が良くないか。

<A委員>

公立の保育所では定員割れを起こしている施設もあると聞いている。

<委員長>

その辺りが課題の抽出として大事。全体で見ると大丈夫だが定員割れをしていると

ころもあるように聞いているので、数値として知りたいということで、データを整理願いたい。

<事務局>

現時点の状況としては、草津市における幼保一体化の捉え方（中間まとめ）の10ページに公立と私立の数値が書かれているので、ご参考にしていただければと思う。

<委員長>

このようにいろいろとお気づきの点ご質問いただければ。

<B委員>

コーホート分析の中で地域差を加味すると言われたが、学区別に出されるのか。

<事務局>

基本的に学区別に出していきたいと考えている。

<委員長>

学区別でかなり精度も上がっていく資料である。それでは次にいきたいと思う。

（2）草津市における幼保一体化に向けての取組み経過について

①事務局から説明

<事務局>

資料「草津市における幼保一体化の捉え方（中間まとめ）」に基づき説明
（説明内容の概要）

1. 草津市の上位計画等との関係について

2. 草津市の現状と課題について

・在籍児童数の推移から読み取れる傾向や課題

3. 国の「子ども・子育て新システム」の動向について

4. 今後の議論の方向性について

5. 幼保一体化に向けた取組みの充実について

・「幼保一体化ワーキング部会」の立ち上げ

・「幼保一体化ワーキング部会」における会議の内容

（研修体制と人材育成、幼保一体化に向けた保育実践交流研修）

・就学前の子どもを取り巻く現状と課題

・就学前の子どもを取りまく課題の解決に向けて

・幼稚園・保育所が果たしてきた役割

6. 議論のなかから見えてきたものについて

・幼稚園・保育園が共通で取り組む基本方針

（教育・保育内容の充実と統合化、子育て支援機能の強化、小学校教育との接続と連携の推移、教員・保育士の資質や専門性の向上）

② 討論・質疑応答

(討論・質疑応答の概要)

- ・ 他幼稚園園長からの要望について
- ・ 幼稚園の3年制保育について
- ・ 「乳幼児教育指針」について
- ・ 保育実践交流研修について

(討論・質疑応答の内容)

<委員長>

草津市の上位計画の説明のあと、具体的にワーキング部会でどのような取り組みがなされたか、そして幼保一体化に向けてどのような取り組みがあったかということについて説明をいただいた。ご質問があればお願いしたい。

<C委員>

この資料を読んで個人的には良く考えてもらっていると思ったのだが、他の私立幼稚園の園長より意見を言ってほしいと要望があった。まず委員会の体制としてオブザーバーを認めてもらえるのか。オブザーバーとして他の私立の幼稚園の園長もここに来ていいのかどうかということ。昨年度からワーキング部会というのが設立されたということだが、それも全く知らないし大事なところが抜けているような気がする。50年以上の草津市の歴史というものが抜け落ちているのではないかというご指摘を受けた。いつ1年保育から2年保育に変わったのかなどの過程も書いてほしかった。たとえば3年制保育が決まるのであれば私立幼稚園にとっては死活問題である。本当に慎重にお願いしたい。できれば4園の園長が全員参加して話を聞かせてもらえる機会を是非いただきたい。

<委員長>

まず、オブザーバーについては、傍聴が認められているので可能である。3年制保育のことがでてきたが、ここは幼保一体化の検討で3年制保育をどうするかという検討ではない。ただこれから2年間検討していくなかでこの議題もでてくる可能性があるので、そういう時にしっかりとオブザーバーとして聞いていただく、あるいは委員の方でいろいろと意見を集めていただくことも可能かと思う。歴史というのは非常に重要なところで、草津市がどのように私立公立共に歩んできたかも大事なところだが、もっと詳細な資料が欲しいということか。

<事務局>

今後の検討内容と開催予定についてのなかに第4回目の草津市における幼保一体化のあり方について、教育・保育の内容についてという部分があり、こういった部分で私立の幼稚園の歴史等についても振り返ることができるかと思っている。

<委員長>

全体的な歴史ということか。

< C 委員 >

従来の教育委員会や公立との関係と同様、今後も共存共栄していきたいと思っている。昨年から立ちあげておられたワーキング部会の流れももっと知りたかった。

<委員長>

その辺は丁寧に考えていかなければならないところだと思う。貴重なご意見ありがとうございます。そういった歴史認識もでてくるということで、十分慎重に審議をしていきたい。

< B 委員 >

17ページの後半部分の幼稚園の3年制保育については、この委員会で意見討議が行われるとみていたのだが、そうではないのか。

<委員長>

当然保育教育の内容をみたとき意見が出てくる可能性は高いと思うが、いきなりここで3年制保育をどうするかということではないと思う。事務局の説明でも幼保の質をかなり強調されていたように思うので、その視点からと、歴史のたどってきた事実というものを受け止めたなかで、どのようにしていくかということ。3年制保育をどうするかということは、最初から出てくる議題ではないと思う。

< B 委員 >

6ページで幼稚園と保育所の連携や教育内容の統一が課題としてみられるということだが、教育内容というのは現状の幼稚園と現状の保育所、すなわち4歳児5歳児の教育内容の統一と受け取ってよろしいか。

<事務局>

幼稚園と保育所では、対象年齢に違いはあるのが現実であるが、幼稚園と保育所、両方の良いところを取り入れるような幼保一体化を行なっていきたいと思っている。

< B 委員 >

24ページの方針1(1)に「乳幼児教育指針」とは、乳幼児すなわち0歳児から就学前まですべての年齢の段階に応じた適切な教育要綱を与え、統一したいという考えだと思う。しかし保育とは教育と養護を含んでおり、上の方では教育・保育内容の充実や特色ある教育・保育の編成というように、教育と保育を並べて書いている。それであればこの仮称も「乳幼児教育・保育指針」としていただきたい。教育だけでは不十分だと思う。

<事務局>

昨年度の取り組みを説明させていただき、今年度は何をやるかという部分は当然あると思う。仮称ではあるが「草津市乳幼児教育指針」というものを今年度1年かけて議論する中で、名称も含めた議論としていきたい。

<D委員>

幼児課ができ、今までなかった画期的な取り組みが昨年度からどんどんなされていることが分かった。そのなかで20ページの保育実践交流研修では、今年度保育所2名と幼稚園2名での交流が実際行なわれたということだが、その経過とその方々を今後どう活用していかれるのかの見通しを聞きたい。

<事務局>

人事交流については昨年度もいろいろな意見があり、園長、所長会からの疑問の声や、職員組合からもなぜこういう取り組みをするのかについて十分な説明を求めるといった話があった。それについて何度も話しをさせていただき、何とかこぎつけたというのが現状である。今年度実施の2名ずつの人事交流については、自ら応募された方はいなかったため、園長や所長からの聞き取り等を通じて、各自の適正や考え方において判断させていただき、それぞれ2名ずつ違う現場への配置を行った。基本的に幼稚園の場合、担任ひとりがそのクラスを運営するという担任制をとっており、一方保育所では開所の時間がひとりの勤務時間より長いということもあり複数担任制をとっている。そういった違いや勤務体制などでも、人事交流職員は相当な戸惑いを感じている状況である。幼児課としてもいろいろなサポートをしながら一日も早く現場に馴染んでいただけるようにと考えている。今後の交流での人材の活用については、やはり幼保一体化ということで、それぞれの力をそれぞれ違う現場へいっても発揮できるような土壌を作りあげていきたいと思う。

<事務局>

それぞれ4名の方は、当初戸惑いや自分がそこでやっていけるのか等の不安もあった中で保育所、幼稚園の良いところや自分たちが積み重ねてきたものを現場でどのように活かしていけばいいのかということを考え、指導員と相談しながら現場での保育・教育にあたっている。今少し確かなものを持ちかけながらではあるが、現場での保育・教育に活かさるよう思っている。

<副委員長>

今後民間も含め幼稚園と保育所が一体化し、新しい保育をつくっていくうえで、これまで全く違う流れで来た二つの形態が一緒になった場合、どのような問題が出てくるかということシュミュレーションされているのだと思う。その実態と今後どう活用していくかの見通しについてだが、他の方にも分かるようにまとめた報告書のようなものを作成されてはどうか。期限を切って成果をまとめたものや問題点などを抽出しながら、どう備えていけばいいか、どう対応できるのかというノウハウなどを透明化していただければ、われわれに伝わるし活用していけると思う。一つ一つ議論していくことに意味があると思うので、今後の活用の仕方をお聞かせいただきたい。

<事務局>

今回異動された4名は非常に不安をもって現場に立っておられるが、われわれとしてはそのなかで違う職場にいて違うやり方を感じていただきたい。自分たちが単にそこに溶け込むだけではなく、今まで培ってきた力を発揮していただきたいと考えている。その中で、受け入れた側も保育所と幼稚園のやり方の違いが見えてきつつあるようだ。職員の不安や悩み、現場での苦勞をしっかりと吸い上げ、皆様にご報告しながら、取りまとめていきたいと考えている。

<D委員>

交流は一番の研修であり、そこでの本人の学び、周りの学びも大きいと思う。お互いに戸惑いをなくすことが理解しあうことにつながっていき、とても良い取り組みだと思う。理解しサポートしながら進めていただきたい。

<委員長>

それでは今後の検討内容やまとめの時期、検討委員会開催予定について事務局より説明願います。

(3) 今後の検討内容と開催予定について

①事務局から説明

<事務局>

資料「草津市幼保一体化検討委員会の検討内容と開催予定（案）」に基づき説明（説明内容の概要）

1. 主な検討内容

- ・草津市における幼稚園・保育所（園）の現状と課題について
- ・国の「子ども・子育て関連3法案」の動向について
- ・草津市における幼保一体化のあり方について
（課題整理と方向性について、教育・保育の内容について）
- ・少子化を見据えた就学前教育施設のあり方について
- ・子育て支援機能と多様な保育サービスのあり方について
- ・幼保一体化モデル園の検討

2. 平成24年度開催予定（6回程度開催予定）

○第2回 9月上旬を予定

〔検討予定項目〕

- ・草津市における幼稚園・保育所（園）の現状について
- ・現状と課題の分析
- ・アンケートの内容（質問の項目等）
- ・国の「子ども・子育て関連3法案」の動向について

○第3回～5回 幼保一体化のあり方について

〔検討予定項目〕

- ・課題整理と方向性
 - ・教育・保育の内容について
 - ・具体的な施策について
- 第6回 幼保一体化のあり方についての中間とりまとめ
- 来年度も6回程度開催予定

(討論・質疑応答の内容)

<委員長>

今後の方向性について、何かご質問等はないか。本日でできた課題については、次回かなり具体的にあがってくる予定となっている。質疑がないようであれば、本日は以上で議事についての検討は終わりたいと思う。

7. 閉会

<事務局>

次回の日程は、9月4日(火)午後2時ごろからということでお願いしたい。会場についてはまたご案内を差し上げます。第3回の予定として、現在のところ11月6日(火)で考えておりますのでご協力お願いします。それでは長時間にわたりご検討いただき、ありがとうございました。